



西はりま天文台発 星空散歩

兵庫県立西はりま天文台編 神戸新聞総合出版センター

神戸新聞総合出版センター，全208ページ，1,600円

解説書

お薦め度

☆☆☆☆

数ある公開天文台の中でも、編者である兵庫県立西はりま天文台は、あらゆる点で最も注目されている天文台の一つでしょう。一般の方への公開業務のかたわら観測研究活動も精力的にこなし、さらには「全国の天体観測施設の会」をはじめとする、いろいろな会の運営を積極的にサポートしています。

今回出版された「西はりま天文台発 星空散歩」は、公開天文台の最も大切な業務である普及活動に対する、西はりま天文台における集大成だと思います。日々の活動が本となって日の目を浴びるというのは、同じ公開天文台で働く者にとって、うらやましく思うと同時にとても勇気づけられます。

地元紙への連載記事が本になっているだけあって、全編にわたり写真や図が豊富に配置され、全体的に読みやすい印象を与えてくれます。スタッフ全員で執筆したということで、内容はまさに多彩。台長の黒田氏は「まとまりがない」ことを心配されていますが、スタッフの皆さんの個性がほどよく強調されていて、まとまりがないようなあるような、まさに宇宙そのものを感じさせる構成でしょう。また、読み進んでいく内にこの本が「単なる解説本」ではなく、スタッフの皆さんそれぞれの性格や星への熱い思い、人生観が織り込まれていることに気づきます。脱線を感じさせながらも理路整然と展開している石田氏や、常にわかりやすさに気配りをしている時政氏、簡単にお茶を濁せない几帳面な小野氏、そして特に鳴沢氏のジョン・グドリックの話（P. 123～124）は、鳴沢氏の人生にいかにか大きな影響を与えたかがひしひしと伝わってきます。ただ、印刷の関係でしょうが、モノクロ写真が上手く表現できていないものが見受けられたことが残念です。

この本の利用価値は、読み物としてだけではあり

ません。「星の魅力を伝えたい」人にとって、この本にはいろいろなネタやヒントがちりばめられているのです。公開天文台やプラネタリウムなどで日々お客さんの相手をしていると、自分の説明パターンになんとなくマンネリを感じることがあります。新しく訪れた人には、同じネタでも新鮮に伝え、何度も訪れている人には、同じネタでも少しずつアレンジしながら話をしなければなりません。自分の説明にマンネリや迷いを感じている人は、ぜひこの本を読んでみてください。ありきたりのネタが、読み進んでいく内に、いつの間にか新鮮なネタに変わっていることでしょう。

さらに、コラムとして取り上げられている「天文学者の言葉」が、この本をより魅力あるものになっています。「黒田氏こだわりの品々」というところでしょうか。洋邦問わず取り上げられた言葉は、星とつき合ってきた長さや思いの深さ、さらには携わっている立場の粹さえも乗り越え、読む人の心に深い感銘を与えてくれることでしょう。そう、天文・宇宙の解説書だけでなく、「自然賛歌」の本でもあるのです。また、出展がていねいに明記されていることで、「もっとよく知りたい」欲望を駆り立てられます。黒田氏の思惑通りというところでしょうか。

「星空を散歩する」というのは、星好きに限らず万人共通のあこがれではないでしょうか？ というか、そうであって欲しいとねがっています。もし私の目の前に天使（悪魔かもしれませんが）が現れて、「あなたを星空散歩に連れていってあげよう」と言われたら……。双眼鏡に懐中電灯（もちろん赤いセロファンで減光したもの）、カイロと防寒着もいるかな……。それからこの本も、ぜひ持っていきたい1冊です。

宮本 敦（さじアストロパーク・佐治天文台）